

# 会報

## NPO防災千葉

Vol. 41

令和5年3月1日 発行

特定非営利活動法人 防災千葉  
千葉市中央区本町1-6-24（渡辺コーポ102号）  
E-mail [bosai@bosai-tiba.jp](mailto:bosai@bosai-tiba.jp)  
Homepage <http://www.bosai-tiba.jp>  
Fax 043-301-3820

### ■ <理事長のあいさつ>

令和5年も3月を迎え、寒さの中にも春の気配を感じられる候になりましたが、「会報」(新春号)の発刊にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、新春1月19日に行われました「令和4年度防災関係建設技術研修会」は、コロナ禍の影響で3年ぶりの開催となりましたが、共催4団体の皆様方には大変多くのご出席を賜り心より感謝申し上げます。今回の研修会では、「防災」に関する3題についてご講演をいただきました。そのうちの2題は本県の防災に関する新しい施策である「千葉県無電柱化推進計画」及び「一宮川水系流域治水の取組みについて」でありました。これらの施策は、令和元年に千葉県を襲った9月の「房総半島台風」及び「10月25日の大雨」と命名された各々の未曾有の災害が引き金となって本格的にスタートしたものです。

房総半島台風では、猛烈な暴風により、おびただしい数の電柱の倒壊や倒木が発生し、長期にわたる停電や道路の全面通行止めが県内の各所で発生しました。無電柱化の推進は「災害に強い道路づくり」といった防災面での向上のみならず、安全で円滑な歩行空間の確保や良好な景観形成においても大変重要な施策であることを改めて認識いたしました。

また、10月の豪雨では、一宮川において4000戸を超える甚大な浸水被害が発生しました。この災害を契機に一宮川水系では河川の整備だけではなく、地域との合意形成のもと流域に関わるあらゆる関係者が力を合わせて水害に強い街づくりを目指す「流域治水」の対策が進められてきています。今後とも特定都市河川への指定も含め「流域ぐるみのプロジェクト」の進展に注目をしていきたいと思います。

そして、三つ目の演題は、「これから防災街づくりの考え方」と題して東京大学の加藤孝明先生よりご講演をいただきました。大災害時代の到来に正しく災害リスクを意識し、地域の資源を最大限に生かし自律的に災害に備えるといった「防災【も】まちづくり」という観点が極めて重要であること、また、「浸水と親水」といった首都東京の浸水対応型市街地構想など「防災地域づくり」に

資する事例紹介など、防災行政に携わる県及び市町の皆様を含め私ども受講者にとって、大変参考になるお話を伺うことができました。

今年は関東大震災から100年の節目を迎えます。過去の災害の経験や教訓を次世代に伝えていくことも私どもNPO防災千葉の社会的使命と心得て、「災害に強い県土づくり・地域づくり」に微力ながら寄与できますよう取り組んでまいります。

本年も引き続き、会員の皆様方の更なるご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



干支の挿絵 NPO会員 御園生 孝さん画

NPO防災千葉 理事長 増岡 洋一

## ■ <防災関係建設技術研修会について>

令和5年1月19日に「プラザ菜の花」において「令和4年度防災関係建設技術研修会」を開催しました。この研修会は、千葉県道路協会、千葉県河川協会、全国治水砂防協会千葉支部との共催によるもので、新型コロナ感染症の影響により3年ぶりの開催となりました。

NPO防災千葉からの出席者47名を含め、総勢129名の出席がありました。

開催にあたり4団体を代表して、当NPOの増岡洋一理事長から開会挨拶があり、また、県土整備部災害・建設業担当部長の渡邊浩太郎様から来賓挨拶がありました。

講演に先立ち、「災害復旧及び災害防止事業功労者」として、公益社団法人全国防災協会から令和2年度に米良信雄様が、令和3年度に橋本大義様と山口浩様が、令和4年度に日野泰宏様が表彰されたとの報告がありました。



日野 泰宏 様 橋本 大義 様

研修会では、まず、県土整備部道路環境課副課長の板橋高春様から「千葉県無電柱化推進計画について」ご講演いただきました。

無電柱化の現状は、千葉県では国・県・市町村道全線に対する無電柱化率が約1%であり、最も進んでいる東京都でも5%台である。県管理道路では、全延長約3,400kmのうち無電柱化済の延長が約19kmであり、0.5%程度と進んでないのが現状であるが、地上機器設置位置の住民同意や関係機関との調整に時間を要しているためとのこと。

推進計画では、計画期間を令和元年から令和10年までの10年間とする。無電柱化を推進する路線として、「防災」、「安全・円滑な交通確保」、「景観形成・観光振興」の基本方針に合致する路線とし、緊急輸送道路1次路線、防災拠点へのアクセス道路、バリアフリー化の必要な特定道路、重要伝統的建造物群保存地区、日本遺産（北総四都市江戸紀行）の地域等の路線を優先的に整備する。10年間で優先整備区間の約83kmについて事業着手し、無電柱化を図る。との説明がありました。



板橋 高春 様

次に、県土整備部河川整備課一宮川流域浸水対策班長の中村大介様から「一宮川水系流域治水の取組について」ご講演いただきました。

令和元年10月25日の大雨による浸水被害は、浸水面積1,762ha、人的被害7名、浸水家屋4,337棟、水害廃棄物6,831トンなどの被害があり、一宮川水系で最大の水害であった。

今後の水害を防ぐための事業は、一つは令和元年豪雨対策（プロジェクトA）として、家屋及び主要施設浸水被害ゼロを目指す「一宮川流域浸水対策特別緊急事業」を令和11年度末までに完了の予定で実施中。その内容は、河道改修や調節池の整備のほか、内水対策としてポンプによる排水・雨水貯留浸透、土地利用施策として条例による建築ルールの策定などです。



中村 大介 様

もう一つは、気候変動対策（プロジェクトB（プロジェクトA+α））として、あらゆる関係者が協働して流域全体の浸水被害リスクを軽減する取組を実施していくとのことです。

事業計画を策定するため、特に地域との合意形成を丁寧に行ったとのことで、専門家らによる5回の浸水対策検討会の間に、地元意見交換会を3回開催するとともに、首長、県市町村職員を対象とした勉強会を開催し、共通認識の形成を図ったとのことです。

最後に東京大学生産技術研究所教授の加藤孝明様から『これからのお防災街づくりの考え方～「防災【も】まちづくり」と「災害時自立生活圏」～』という演題で、ご講演いただきました。

加藤教授は、都市計画、防災の専門家として、東京都地震被害想定の専門委員や一宮川流域治水協議会のアドバイザーを務めるなど、自治体の計画策定等に幅広く携わっております。

国交省の資料によると、気候変動により気温が2℃上昇すると水害頻度は2倍になるとの計算結果もあり、河川整備が追いつかないかもしれないとの予測もある。そういう状況の中、防災【だけ】ではまちづくりは成立しない、防災【も】という発想が必要であり、災害への備えを日常に織り込むことが重要であると提唱する。数十年に1回使うかどうかの津波避難タワーと観光施設を一体的に整備し、平時でも利用できる施設とするなどの観光防災まちづくり計画が事例として紹介されました。



加藤 孝明 様



また、災害時自立（生活）圏構想では、災害時に膨らむ需要に対して行政の対応力に限界があるため、自助できる人を増やし、支援の対象を社会的弱者に絞ることが重要である。さらに、民間商業施設やタワーマンション等を活用し、災害時自立（生活）圏を構築すれば、限られた行政の人材・資源を真に必要なところへ配分できるようになる。との説明がありました。

いずれの講演も大変素晴らしい、話に引き込まれ、あっという間の3時間の講習でした。

## ■ <土木遺産調査伝承事業（試行）>（新規事業）

この事業は、これまで先人たちが自然災害防止などを目的として整備した千葉県内の土木施設等を訪れ、地域の歴史や整備の経緯等について、現在土木施設整備を担っている若い技術者たちへ伝承することにより、今後の施設整備の一助となればと考え、千葉県建設技術協会との共同開催としてスタートすることとしました。

今回の開催状況をふまえ、開催通知や現地配布資料、説明方法などについて、徐々に改善してまいりたいと考えております。

### ○開催状況

実施日：令和4年11月12日（土）

参加者数：30名（千葉県建設技術協会19名、NPO防災千葉11名）

訪れた施設：常夜灯（市川市指定有形文化財）、江戸川水閘門、行徳可動堰など  
(市川市本行徳地先他)

説明者：松尾弘道氏（ちば河川交流会）



「行徳ふれあい伝承館にて」

渡邊浩太郎 千葉県建設技術協会会长並びに増岡洋一 NPO防災千葉理事長による開会挨拶状況



「常夜灯にて」

参加者による集合写真



### 「旧江戸川左岸にて」

写真では確認しづらいが、左手に江戸川閘門  
その右に江戸川水門が確認できる。  
松尾氏から両施設の概要などの説明を受け、  
その後現地へ向かう。



### 「行徳可動堰下流側にて」

松尾氏から可動堰やそれ以前にあった固定堰、江戸川の  
掘削状況、八幡から行徳まで続く内匠堀など地域の歴史  
などを含め詳細な説明を受けた。  
写真では撤去中の2代目行徳橋の橋脚が確認できる。

## ■ <土砂災害危険箇所点検への参加>

土砂災害防止月間（6月）の事業として行われる土砂災害  
危険箇所点検（通称 がけ点検）に、当NPOでも積極的に  
取り組んでいます。その詳細は以下の表のとおりです。

### 近年の実施状況（点検箇所数）

|        |   |       |
|--------|---|-------|
| 平成29年度 | … | 876箇所 |
| 平成30年度 | … | 832箇所 |
| 令和元年度  | … | 841箇所 |
| 令和2年度  | … | 871箇所 |
| 令和3年度  | … | 846箇所 |

（実施期間 令和4年6月2日～7月1日）

| 土木事務所名   | 実施日数 | 点検箇所数 | NPOの参加者数 | 土木事務所名  | 実施日数 | 点検箇所数 | NPOの参加者数 |
|----------|------|-------|----------|---------|------|-------|----------|
| 千葉土木事務所  | 4    | 21    | 7        | 海匝土木事務所 | 2    | 32    | 4        |
| 葛南土木事務所  | 3    | 85    | 5        | 山武土木事務所 | 3    | 24    | 7        |
| 東葛飾土木事務所 | 4    | 41    | 4        | 長生土木事務所 | 1    | 98    | 6        |
| 柏土木事務所   | 2    | 29    | 4        | 夷隅土木事務所 | 6    | 60    | 6        |
| 印旛土木事務所  | 6    | 118   | 12       | 安房土木事務所 | 5    | 116   | 8        |
| 成田土木事務所  | 3    | 45    | 6        | 君津土木事務所 | 6    | 68    | 14       |
| 香取土木事務所  | 1    | 40    | 5        | 市原土木事務所 | 1    | 80    | 8        |
| 銚子土木事務所  | 2    | 19    | 4        |         | 計    |       | 876      |
|          |      |       |          |         |      |       | 100      |

## ■ <あるくパトロールへの参加>

「道路を守る月間」（8月）の事業として、毎年土木  
事務所が行っている「あるくパトロール」に、令和  
4年度は13土木事務所管内で参加しました。

NPO防災千葉からの参加者は、新型コロナウイルス  
感染症の影響で職員のみで実施した土木事務  
所があり、例年よりやや少ない延38名でした。

### 近年の実施状況（参加延人員）

|        |   |     |          |
|--------|---|-----|----------|
| 平成29年度 | … | 63名 | （14土木事務） |
| 平成30年度 | … | 52名 | （14土木事務） |
| 令和元年度  | … | 54名 | （14土木事務） |
| 令和2年度  | … | 40名 | （13土木事務） |
| 令和3年度  | … | 39名 | （13土木事務） |

## ■ <震災訓練への参加>

令和4年9月9日に実施された千葉県県土整備部震災対策訓練に、当NPOからすべての土木  
事務所管内で合わせて53名が参加しました。新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するため、  
訓練は携帯メール等による情報伝達訓練を中心に行なわれました。